

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700543		
法人名	社会福祉法人 豊の里		
事業所名	グループホーム2ユニットさつき(さつき)		
所在地	宮崎県北諸県郡三股町樺山4845番地8		
自己評価作成日	令和2年3月31日	評価結果市町村受理日	令和2年4月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内
訪問調査日	令和2年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①事業所独自の目標・理念を掲げ、職員一同が唱和・共有し、ケアに努めている。</p> <p>②ナラティブノートを作成し、御利用者の言葉などノートに記入し、本人の訴え、思いに寄り添えるよう取り組んでいる。</p> <p>③御利用者やさつき楽団を作り、一人一人の趣味や得意な事を活かせる環境で、音楽を通じ、職員、御利用者が同じ目標を持ち、発表に出かけたりし、楽しく取り組んでいる。</p> <p>④個別ケアでは本人から聞き出したやりたいこと趣味などを活かし音楽や裁縫や園芸など行い楽しく役割りを持って頂きながら過ごしていただく取り組みを行っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは地区公民館に加入し、地域の行事に参加したり入居者の作品を祭りに出展するなど、積極的に地域との交流を図っている。天候が悪くなると近隣住民から洗濯物を取り入れるよう電話連絡が入ったり、地区の消防団が災害時にホームの協力ができるよう協力員のグループを配置するなど、地域との密接な関りができている。ホームの暮らしの中で入居者の発する言葉や行動を記録するナラティブノートを作成し、日々の暮らしの中に入居者の想いや希望を取り入れる工夫がされている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	●グループ理念をもとに独自の目標を6項目作成し取り組んでいる。また、ご利用者様が地域の中で、生き生きと生活できるように話し合いを持ち、ケアプランに基づき一人ひとりに合った柔軟なケアを実践している。	法人及びホームの理念がフロアに掲示され、職員は朝礼時に唱和している。管理者は常に理念に基づく支援の在り方を職員へ伝達している。キャリアアップ試験には理念についての質問が組み込まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	●公民館に入り地域とのつながりを継続して取り組んでいる。地域の祭りにも参加したり事業所自体が地域に溶け込む取り組みを行っている。	地域の行事や祭りに積極的に参加し、入居者の作品を展示したり、職員が余興に参加している。公民館役員がホームを訪問し、総会の内容を伝達に来るなど地域住民との顔なじみの関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	●日中の活動などで地域の方に施設に来ていただき交流を図れる取り組みを定期的に行って地域の人々に認知症の理解に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	●運営推進会議で、活動内容やご利用者状況等を公開し、地区公民館長、民生委員、町役場、三股町包括支援センターに、意見や感想を頂きケアを振り返っている。	運営推進会議にはかかりつけ医の参加もある。入居者の家族より活動の様子のみでなく普段の様子や表情も見たいという意見があり、ホーム便りを活用してその様子を伝えられるようにしている。	会議に参加できていない家族へ報告を行い内容を把握してもらうなど、運営推進会議開催の目的を遂行するための更なる取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	●役場、包括支援センター社協等訪問し、情報共有、相談を行っている。また、南部こども福祉センターとも連携を図り、生活保護受入などを行うなど密な連携を図っている。	普段から積極的に行政機関へ出向き、空床についての相談や情報共有を行っている。顔なじみの関係ができ、コロナ対策の支援では三股町よりマスクや消毒液の提供があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	●身体拘束マニュアルや外部研修に参加し冊子などで学習し、全職員を対象に3か月ごとに勉強会を行い、どのようなケアを行っていけばよいか随時話し合いを行っている。、夜間は離床センサーなど活用し、本人の行動を妨げない工夫を行っている。	3ヶ月に1回のペースで身体拘束についての勉強会を行っている。職員は身体拘束やプライバシーの問題について学び、勉強会後に感想を残している。勉強会の資料と感想は毎回役場に提出している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	●スタッフ会議や朝礼など・人権尊重、ケアについて話し合い予防に努めている。また、虐待防止研修会など参加し、参加後は、全職員との勉強会や資料提供し啓発を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	●権利擁護について役場主催の研修会や外部研修などあれば参加し、冊子や資料提供を行い知識や意識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	●重要事項や契約書の説明を行い、疑問や質問についてはその都度説明し納得の上、署名捺印を頂いている。また、経済的な不安要素がある方については、生活保護受け入れ体制や料金の低い施設等への情報提供も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	●運営推進会議で、家族や御利用者の参加を設けている。また、アンケート実施や施設内苦情についてのポスター掲示、苦情担当を明記した、退所があった場合にもケアについての意見収集を行っている。	入居者の家族から匿名でアンケートを記入してもらい意見を運営に活かせるよう取り組んでいる。病院受診への付き添いの時間は家族とのコミュニケーションが図れ、直接意見を聞く機会となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	●スタッフ会議や勉強会等で、勤務体制やその他について意見提示求め改善に努めている。また、事故発生後やヒヤッとした事は、書面等にて職員伝達し、周知を行いケア統一を図り、処遇を報告し、情報の共有を徹底している。	法人は多くの事業所を運営しているため、職員の希望があれば別の事業所への異動も斡旋している。管理者は職員の意見を尊重し、必要があれば業務の見直しなど一緒に改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	●年2回の個別面談を行い勤務状況についての要望等を聴き、研修参加や資格取得へのなげかけを行っている。介護福祉士取得の為に研修参加したり他の職員もスキルアップとともに意欲にもつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	●法人内研修参加や外部研修参加、介護技術勉強会を行い質向上を行なっている。また、新人は1ヶ月のOJTの後、評価を行い、出来ているところ、出来ていないところを双方で確認し、更なるOJTの取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	●グループホーム連絡会・勉強会などに参加しその際に、他の同業者と交流を図り状況の交換や職員も参加し話し合うことによりサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	●サービス導入時、家族からの話だけでなく、本人との面会を行い、本人の意向や気持ちなど重視して関係作りに努めている。また、病院や他施設からの転移入居の際は、十分な情報収集を行いなっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	●まず相談時、現在の相談者の状況や気持ちの受容を行い、安心してもらえるように努めている。その後、施設についての見学を進めたり、介護についてのアドバイス・専門機関の紹介等を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	●申請時には、地域連携リーダーよりグループ全ての施設紹介を行い、御家族・御利用者が望む施設はどこか見極め、相談時の本人・家族の状況の把握にまず努め、現状の解決策を色々な面から考え情報提供等行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	●しっかりとコミュニケーションを図り対話を中心に取り組みお互いを共有するよう努めている。家庭的な雰囲気や大事に共に暮らしていることに力を入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	●本人の状況をさつき通信(行事や日常の風景等)や電話などで報告している。また、年間行事や家族会行事への参加をなげかけ、家族と共に支えあう意識と交流をより多く持っていただくように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	●外出支援では、馴染みの場所や家に近くを通り関係が途切れないよう取り組んでいる。近くにお店もあり一緒に買い物などに行き馴染みの場所の継続に取り組んでいる。	入居者は天気の良い日に近隣を散歩している。入居者らしき人が近所を歩いていると住民から連絡が入ったり、天候が悪くなったので洗濯物を取り入れるように電話連絡してくれるなど関係性が築かれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	●御利用者同士の性格や状態を把握した上で、(人的・住居的環境)席のセッティングなどを行ないトラブル予防に努めている。利用者同士のコミュニケーションの場を作り職員も加わりより良い関係づくりに取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	●家族への電話や入院先への訪問・退居後のサービスへの助言や情報提供、家族会行事の参加など連絡し家族とのつながりがもてるよう取り組んでいる。法人としてもロングタームケアに取り組んでおり安心して次に繋げられる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	●プラン変更時や更新時、状態の変化時など本人の思いや暮らしへの要望を聴き取り、把握に努めている。また、聴きとり時、本人の口調や表情等に気配りを行い、真意の引き出しに努めている。普段からの信頼関係づくりにも取り組み思いをすぐに言える関係性に取り組んでいる。	入居者本人の言葉や行動を記録したナラティブノートを活用したり、家族からの情報収集で本人の思いをくみ取り、日々の生活に活かせるよう取り組んでいる。畑仕事や裁縫を通して会話の増えた入居者もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	●入居前の事前調査・アセスメントにて情報収集を行っている。また、入居後も随時本人や家族より聞き取りを継続しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	●ナラティブノートの活用や介護記録への記載、観察簿記入、食事状況・排泄状況などの細かい記入を行い、口頭や申し送り帳による伝達など情報の共有を行い心身状態の把握に努めてケアにつなげている。ユニット会議でも常に情報共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	●面会時の家族への聴き取り・スタッフ会議やユニット会議や申し送りなどでの情報交換を行い、計画作成に活かしている。また、ご利用者に変化があればすぐに家族へ報告し、計画変更や対応方法等を報告している。	ケアプランのモニタリングやカンファレンスには極力入居者本人の参加も促している。職員の気づきをまとめる形でケアマネージャーがプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	●24時間の記録形式(午前・午後・夜間)で本人の言動や行動など記録し、状態変化や特記の把握を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	●地域の行事参加や外出先での外食などを行い、生きがい支援を行っている。また、主治医以外の受診やボランティアの活用など、本人家族の要望などを把握しながら柔軟に生活を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	●所在地域の夏祭り、敬老会参加や、公民館行事参加、施設内行事への参加を実施。また、散歩時に地域の人と関わる機会を持ち交流を図れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	●御利用者の体調不良時には、かかりつけ医と連携を図り、夜間はオンコールドクターが対応してくれている。また他専門医等へも相談しながら密に図っている。他科定期受診の際も、可能な限りご家族と一緒に受診し、連携を図り支援を行っている。	ホームに入居するまでのかかりつけ医に継続して関わってもらっているが、状況によってはホームの協力医療機関へ主治医を変更してもらっている。協力医療機関にはオンコールドクターが在籍し、24時間に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	●日々の健康状態を把握し、異常時などライフクリニック(嘱託医)と連携を行い、受診や医療面での充実を図っている。また、定期的な専門外来や他科や専門受診も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	●通院・入院が発生した場合、必ず職員が付き添い、状況把握に努めている。また、随時家族との連絡を行い、入院によって家族が不安にならないように努めている。その他、退院後の再入居のときなども、退院カンファレンスを行い充分なフォローケアに徹している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	●ターミナルケアを行っていない為、施設申し込み時、重度化や終末期について、施設の方針の説明・理解を求めている。状態悪化時は主治医と地域連携担当職員と連携を図りながら、本人家族と話し合いを持ち、今後の方向性を検討しながら、結果をスタッフ全員で共有している。	法人が多くの事業所を運営しており、入居者の身体状況に合わせて他事業所への異動ができる。体制の整備を行っているが重度化に限らず入居者の急変時に対応できる訓練等の取り組みが必要である。	入居者の急変等に備え、AEDを使用した訓練や体制の整備など、夜勤専従職員を含めた取り組みが入居者や職員の安心確保につながることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	●危機管理、事故発生時の対応マニュアル等を作成し共有し、急変時はすぐに主治医へ報告や相談、夜間急変時や事故についてもオンコール体制で報告相談を行っている。また、定期的な施設内勉強会で学び対応等を検討実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	●地域の方々、公民館長の協力を頂き、年2回の消防立会い避難訓練、毎月の自主避難訓練を実施を行っている。また、非常食の準備など災害時を想定して準備している。訓練は、夜間想定、日中想定を双方を行い、毎月の反省を振り返りながら実施している。	避難訓練は地区の回覧板を使って近隣住民にも参加を呼び掛けている。地区の消防団ではホーム協力員を設置し、災害時の協力ができるよう備えている。訓練には入居者も参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	●個々の性格など把握し、家事活動などお手伝いを頂き、ねぎらいの言葉をかけ支援している。また、できない部分はそっとお手伝いしながら、自信を損ねないよう配慮しながら支援している。	管理者は入居者のプライバシー保護に努め、入居者目線で職員への指導を行っている。日常の支援の中での気づきは、その場で理解してもらえるよう職員へ伝えており、職員個々の理解に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	●本人の行動や言動、思いを傾聴しながら、柔軟に対応できるよう支援している。また、活動でも職員が決めるのではなく、ご利用者と話しあいながら決定したもので進めていくよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	●日課については、ご利用者の朝のお茶の時間に職員も一緒にお茶をのみ、会話しながら決めたり、その日の行動や言動、心身状態に応じ、関わり方を工夫している。対話から趣味や出来ることを聞き出しながらその方にあった楽しみを提供している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	●洋服など、ご家族に持ってきてもらったり、家族との外出などで購入される方もいる。また、イベント等の参加でもおしゃれできるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	●食事は、法人関連事業(セントラルキッチン)が作ったものを提供している。活動の中でご利用者がおかず作りや弁当作りなど職員と一緒にしたり、できる事はお願いしながら盛り付けや簡単な調理など行ってもらっている。誕生日には皆さんでケーキを作りお祝をして楽しく食を楽しんで頂いている。	毎月1回入居者からのアンケートをとり、食事の希望を献立に取り入れている。畑でできた野菜を汁物やおやつに取り入れたり、近くの商店へ買い物に出かけ、入居者と一緒に調理する機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	●管理栄養士が考えたメニューにての実施。観察簿に摂取量等の記入をしている。また、スタッフも同じ物を食べ、一緒に食事の時間を楽しんでいる。また、お茶会や家族参加の食事会などの行事を行い食べる楽しみを持ってもらい、本人の摂取状況に沿った食事形態を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	●毎食後・口腔ケアを行ってもらっている。週2回は薬剤による洗浄を実施している。定期的な歯科検診実施、必要時は受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	●日中は全員トイレ使用を実施している。本人の状況にあった誘導の時間、歩行器具など使用し歩行支援を行い、可能な限り、自立に近づける排泄ケアの実施に努めている。	入居者の所作から排泄のサインを見逃さないように心掛けトイレ誘導を行っている。夜間おむつ使用の入居者も日中はリハビリパンツに変更し、極カトイレで排泄できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	●観察簿で排便チェックを行い、散歩やレク参加を促す事での、腸の運動促進や排便間隔の把握による便通を促す食品の摂取や牛乳の飲用・排泄時の腹部マッサージなど、毎日の観察簿で把握し排便コントロールなどを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	●基本3回/週は入浴、清拭行い、入浴順番は個々の意向や身体状況を考慮して決め、入浴時のプライバシー確保に心がけている。また、バスクリンなど使用し、香なども楽しんでもらっている。	週3回(毎週月・水・金曜日)の入浴を実施している。入浴剤を使用し、香りを楽しみながら入浴できる工夫をしている。入浴が嫌いな入居者には本人の気分に合わせていつでも入浴できるよう準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	●気候に沿った寝具や衣服の調節・入眠時間等設定している。又 夜間訪室時、本人が安心できるような声かけや照明、室内の温度や個々に応じ、尿取りパットの種類にも配慮し、入眠事の際にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	●スタッフ会議や朝礼、職員伝達簿などで利用者の疾患や薬の処方状況、個々の薬錠など把握し、薬変更時も、連絡帳や口頭での申し送りなどを行い、スタッフ全員での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	●本人の生活歴を会話から聞き活動につなげている。食器拭きでは他者をみて協力する姿もあり職員も一緒になり取組み役割りづくりに取り組んでいる。農園づくりなどで外に出る機会を増やし気分転換も図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	●本人の外出希望については、家族へ相談を行ったり、季節ごとの花を見に行く機会を計画的に取り入れや天気の良い日は体調に配慮しながら散歩の機会を増やし、戸外に出かける事を増やしている。	散歩を積極的に行っている。コロナの影響で買い物等の外出は控えているが、花見はドライブで出かけ、車の中から楽しんでもらった。一人で出かけた入居者には職員が付き添い、二人で出かけられる機会を作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	●買い物などの際は、ご家族了解のもと預かり、一緒に買い物に行ったり、また、ご家族と外出の際に買い物されてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	●さつき通信を出したり、個々で手紙を書かれる方もいるので郵送の支援など行っている。また、電話での対応支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	●季節感を取り入れた掲示物・活動写真、花瓶の花・鉢植え等、季節感や思い出を感じられるような工夫を行っている。光や音についても御利用者に合わせて調節しながら、音楽などモーツァルト曲や、懐メロなど流し、心地よい環境作りに取り組んでいる。	隣のユニットとの入居者の出入りは自由である。共有スペースには入居者と一緒で作成した季節感のある飾り物が置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	●ホールと和室にはそれぞれテレビが設置されており鑑賞を行ったり、和室に関しては数人用のソファが置いてあり、ゆっくりしながら会話できるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	●居室は畳の部屋で落ち着いた雰囲気になっている。入居時は、本人が使用していた家具や家族の写真等を持ってきてもらい、馴染んだ環境作りに努めている。活動での製作物なども飾ったり、また、個々で自室にテレビを設置され自分の時間を楽しんでいる。	居室には馴染みのものを持ってきてもらえるよう家族に伝えている。床は畳で落ち着いた雰囲気である。可能な入居者は自分で布団敷きを行い、できることを継続する支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	●御利用者の身体状況の把握をおこない、臨機応変にケアを対応し、心身状況に応じた、補助器具など使用して自立した生活ができるよう努めている。		